日刊ゲンダイ
〈日刊〉第9889号
8月21日(金)
2009年8月20日発行

注目集める抗IgE抗体療法の実力わかった！

重症喘息もこれで助かる

息苦しい！

「意外に即効性ある」と専門家

どんな治療を施しても喘息症状をコントロールすることができない難治性喘息に効果的な薬が、今年3月発売され、それを用いた「抗IgE抗体療法」が注目を集めている。一体どういうもので、効果はどうなのか？

昭和大学医学部呼吸器・アレルギー内科部門の足立満教授に聞いた。

薬の名は「オマリズマブ（商品名ゾレア）」。血中のIgE（アレルギーを起こす免疫グロブリンE）の働きを抑制して、アレルギー症状を抑える。投与は1カ月に1～2回の皮下注射。

喘息には、アレルギーの原因が特定されIgE抗体が確認されるアトピー型と、そうでない非アトピー型があるが、この薬の治療の対象になるのはアトピー型の成人難治性喘息患者だ。

アトピー型は成人難治性喘息患者の50～60%を占める。

足立教授は「意外に即効性があることを実感している」と話す。

「一昨年に吸入ステロイドと気管支拡張剤を合わせたアドエアという合剤が認可され、またそれ以外にも優れた薬がいくつか登場しています。それらによって入院を回避できるなど難治性喘息の治療成績は上がりました。しかし、完全な症状のコントロールが困難な患者も、少なからず存在します。吸入ステロイド薬を最大量使い、経口ステロイド薬を頻回に服用しても、症状がしばしば出る、増悪するという患者さんがいるのです」

その割合は、昭和大学病院に通う成人喘息患者を調べたところ、13・4%に上った。

「ところがオマリズマブを投与すると、どんな薬でもひくともしなかった症状が治まる。ある患者さんは、月1回来院する以外は外出できないほど重症で、この薬の投与を始めました。1回投与し、その1カ月後に来院したとき、『この1カ月とても体調が良かった。浅草に遊びに行けたんです』とおっしゃっていました」

オマリズマブを投与した群とプラセボ（偽薬）群の比較試験でも、「重度の喘息増悪率」「救急外来の訪問頻度」の両方とも、オマリズマブ群が半分以下だったという。

「日本で認可が下りる前、世界で最も権威ある医学雑誌ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシンに、『オマリズマブの使用で、50%以上の人が経口ステロイド薬を減らすことができる』という論文が掲載されました。難治性喘息の患者さんの中には、毎日少量とはいえ副作用が心配される経口ステロイド剤を投与しなければならない人もいるので、朗報です」

ネックは値段だ。健康保険適用とはいえ、注射1回7万円。3割負担で2万1000円と高い。

「ただ、難治性喘息への効果はかなり期待できます。1クール4カ月の皮下注射で、専門の先生がいる病院やクリニックで行っています。難治性喘息で苦しんでいる人は、今かかっている医師に一度相談してみるといい」